

# 事務事業評価シート

年度

3

## 1. 基本情報

事業番号	030502020011	事務事業名	配食サービス事業
まちづくり目標	健やかな暮らしを守り支え合うまち	施策	高齢者がいきいきと暮せるまちづくり
基本施策	地域包括ケアの推進	取り組み事項	介護サービスを充実する
部名	健康福祉部	課名	長寿福祉室
事業の開始	平成13年度	終了年度	なし
実施の概要	栄養バランスのとれた食生活を営むことが困難な高齢者等に対し、委託業者による弁当の宅配及び配達時に安否確認を行う。		
対象	市民税非課税世帯の高齢者及び重度障害者		
目的	高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、栄養バランスのとれた配食の助成及び安否確認により在宅高齢者の福祉の増進を目的とする。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画		
根拠法令	条例・規則・要綱		
	相生市配食サービス事業実施要綱		

## 2. 事業費

### (1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.27	0.27	0.27	0.27
会計年度任用職員数			0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計			1,832,370	2,065,466	2,065,466	2,065,466
事業費計			4,128,800	4,338,000	4,338,000	4,338,000
フルコスト			5,961,170	6,403,466	6,403,466	6,403,466

### (2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源	国庫支出金		2,060,271	2,114,000	2,114,000	2,114,000
	県支出金		794,794	835,000	835,000	835,000
	市債		0	0	0	0
	その他		478,941	554,000	554,000	554,000
フルコストー特定財源			2,627,164	2,900,466	2,900,466	2,900,466
事業費計ー特定財源			794,794	835,000	835,000	835,000

## 3. 評価指標

### (1) 活動指標

指標名	【質】登録者に対する利用率					
単位	%					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			51	51	56	56
単年度実績値			55.7			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	109.21%	-	-	-

## (2)コスト指標

指標名1	登録者に対する利用率1%に係るコスト					
単位	円/％					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			116,885.6863	125,558.1569	114,347.6071	114,347.6071
単年度実績値			107,022.8007			

## (1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	高齢者の在宅生活を支える上で、配食サービスにより、栄養改善とともに安否確認を行う事業は必要である。	なし
有効性	B: 比較的有効である	在宅生活が維持されることによって、住み慣れた地域での高齢者の生活継続が、本市にとって施設整備を抑制し保険料の軽減が図られる。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	サービスの提供として、月20食を限度とすることで、親族による家事援助等を促している。	あり
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	効率的な事務の見直しを随時検討していく必要がある。	あり
透明性	B: 比較的透明性を確保している	民生委員やケアマネジャーと連携し周知している。 市ホームページや市作成冊子「介護保険制度と認知症ケアネット」への掲載をしてPRを行っている。	なし

## (2) 総合評価

総合評価
A

## (3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	民生委員やケアマネジャーと連携し、確実に配食サービスが受けられるよう調整していく必要がある。
休止・廃止となったときの影響	自費のみで配食を注文することになると経済的負担となり、配食の注文をしなくなると、栄養バランス等にも影響がでてくる。また、登録者の見守りを兼ねているため、安否確認ができなくなる。

## (4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	介護サービス以外の高齢者の在宅生活を支えるメニューの一つとして、専門職からのニーズも高く、配食するとともに登録者の見守りが行える事業となっているため、継続し実施する。